

令和元年度 福島県公立小中学校事務研究大会

第3分科会ご質問と回答

R1.9.19 田村地区公立小中学校事務研究会

ご質問	回答等
田村地区会員数は何人ですか？	令和元年度は30校に31名の会員です。次年度は統廃合があるため、27校となる見込みです。寂しくなりますね。
研修・研究・広報委員会はそれぞれ何人ぐらいで運営していますか？	各委員会8～9名程度です。事務局（会長1・副会長2・事務局員2）は委員会に所属していません。
スライドの中で、現在の会員は27名とあったように思います。27名は事務職員全員で、その全員が実質的な活動に参加しているのでしょうか？	参加しています。事務局以外は全会員が委員会に所属し、何らかの活動をしています。
会員全員が委員会に所属とありましたが、所属の変更などはどのようにしているのでしょうか。	年度末の「ふりかえりステップアップシート」に、次年度所属したい委員会名を記入してもらっています。未記入の人もいますが、その場合は原則残留となります。最終的には人事異動後の役員会で決定します。
アンケート、反省などを回収するのに、どの程度の日数を提示していますか。（締め切り日までの日数はどのくらい設けていますか？100%達成は素晴らしいと思うので教えてほしい）	研修会後のアンケートは、研修会終了後5分程度アンケート記入の時間を確保しているため、その日のうちに回収です。毎回回収率100%とはいきませんが、人は忘れる生き物なので、記憶が鮮明なうちに記入して提出することが第一だと考えています。
研修時間の確保はどこの支部でも悩むところだと思いますが、田村地区では1日研修が2回あるのでしょうか？	7月と2月の2回です。研修の機会に恵まれているなあ、と感じます。
各委員会編制について、毎年メンバーが替わるとは思います。スムーズに活動できますか？	すべてのメンバーが一度に替わることはありませんし、委員会の計画の中で役割分担が明確になっていますので、新たに入った人が迷える子羊とならないよう、導くことができるようになっています。
今年度共同連携のグループから2名退職し、メンバーチェンジになりました。「つなぐ」具体例ありがとうございます。全体的にレベルが高く感じられますが、「ついていけない、むずかしい」と感じる会員はいないのですか？	活動ありきで、従前どおりやっていることです。いってみれば「授業スタンダード」であったり、育成指標であったり。発表でも触れましたが、全員がいわゆる「意識高い系」ではありません。ふりかえりをしっかり行うことで、会員のニーズに合った研修を探っていくのです。
一声に素晴らしい！田村支部さんが長い時間をかけて作成した資料を見ると、どうしたら自分の地区でもここまで考えられたプランや事務研活動ができるのかと思います。事務研という組織において、どうやってプランを作成していったのか知りたい。	お褒めいただき恐悦至極に存じます。
「夢をかたちにステップアップ総合プラン」策定プロジェクトチームの構成について、人数や選定方法など教えてください。 「ステップアップ総合プラン」のフレキシブルな部分についての見直し、修正等は研究委員会が担っているのでしょうか？	発表でも触れましたが、何も無い状態からのスタートでした。計画したことを実行し、ふりかえり、会員へ還元し、それを少しずつ積み重ねる。そんな小さな一歩があって、このプランができあがりました。一番苦労したのは、2000年策定の「研修・研究ガイドライン」作成に当たられた方々です。これがなければ総合プランはなかったと言っても過言ではありません。ガイドラインを基に、様々なプランを組み込んで再構築された総合プラン。役員や各委員会から選りすぐられたメンバーでプロジェクトチームを結成し、試行錯誤しながら、実に6年の月日をかけて策定することができました。詳細は涙なしでは語れないため、割愛させていただきます。
このプランが体系化するまでの過程をお聞きしたい。	見直しについては今後の検討課題です。委員会だけでは難しい部分もありますので・・・。
日々の仕事をしながら、どのように事務研活動の時間を作り出しているのですか？	なんとかしてひねり出しています。

令和元年度 福島県公立小中学校事務研究大会

第3分科会ご質問と回答

R1.9.19 田村地区公立小中学校事務研究会

ご質問	回答等
事務研の活動が多く、活発なイメージですが、普段の仕事と事務研の活動で忙しくないですか？	忙しくないと言ったら嘘になります。でも、最終的には自分のためになります。達成感を味わうことも大切ですから。
普段の仕事と事務研の両立は難しくないですか？	両立するものではなく、仕事の一部分と考えると難しくはないようです。
地区事務研の活動と共同連携でのすみ分けはどのようにされていますか？ 共同連携が始まって町事務研の組織はどうになりましたか？（解散？休止？）	研究委員会では、共同連携が始まる前から「方部別研究」（研究カリキュラムの一つ）を担当していました。共同連携が始まってからは、研究委員会が持っていた方部別研究のコマを共同連携の時間に充てることとしました。すみ分けているのではなく、抱き合わせていると表現した方が近いでしょうか。恵まれた研修機会のおかげで、共同連携の時間の確保にもつながっていると思っています。 現在グループは、三春町1、小野町1、田村市2となっています。小野・三春は町事務研の組織＝共同連携なので、町の事務職員会等と兼ねています。田村市は市事務職員会があり、年2回研修会を開催しています。
地区事務研と共同・連携実施の関連を教えてください。	
研究の分野を共同・連携グループとコラボ（連携）していますが、どのように進めていったのですか？	
事務研の研究活動と、共同連携の「すみわけ」の部分をもう少し詳しくお話しいただければありがたいです。	
事務研の中に共同連携の会議を入れていますが、事務研会員でない人の取扱いはどうなるのか？グループ会議だけ出席させるのですか？	全員が事務研会員ですので、共同連携を地区事務研修会と同日開催することができます。
会員個人としては、アンケートの記入・あぶくまに載せるもの、ふりかえりシートなど、委員としてはアンケートの集計、委員会としての活動等、学校の仕事の他に事務研の活動が負担になると言うことはありませんか？（どれ一つとってもすごくきちんとまとめられているので、時間の捻出が気になりました。）	みんなで活動していますし、役割分担がしっかりしているので、一人に仕事が集中することはそんなにありません。会員数の減少により一人あたりの負担が多くなる可能性もあり、今後の大きな課題であるといえます。でも、忙しいことを決して表に見せない卓越した技術を持っている人がいるのも事実です。
スタッフ（会員）27名で発表されたこと、よくできると感心します。どのグループでもあるのですが、やはり一人に仕事が集中していることはないのでしょうか？	
毎回の研修会の内容は、具体的にどのように決まっていますか？（誰が・どんなことを基に・どんな雰囲気・どのくらいの時間で）	「ふりかえりステップアップシートのまとめ」を参考に、研修委員会が計画し、役員会をとおして決定します。和気あいあいと、楽しく研修ができるよう考えてくれますが、研修内容によっては企画に時間がかかることもあるようです。
研修ステップアップシートは毎年配布ですか？5年間でまんべんなく研修できている？ 会員講師の負担感は？	ステップアップシートは継続して使用し、いつでも過去の研修や記録などをふりかえることができるようにしています。 研修企画が難しいものもあり、すべての研修を終了するには至っていません。 会員講師を引き受けることで自身の勉強にもなりますが、過度な負担とならないよう配慮しています。県の講師派遣制度も利用して研修を行っています。
要項73ページの「学校事務でい」の取組についてお聞かせください。	総合プランに「手立てやすすすめ方の例」として掲載されているもので、具体的な取組は行っていません。

令和元年度 福島県公立小中学校事務研究大会

第3分科会ご質問と回答

R1.9.19 田村地区公立小中学校事務研究会

ご 質 問	回 答 等
今日展示してあるような冊子類を保管していると思いますが、どのようにしているのでしょうか？バラバラになってしまわないのですか？	今回の分科会では、会員個人が保管している資料をかき集めて展示しました。予備は事務局が保管しています。
データ化が進む中、「会報あぶくま特集号」は紙ベースだがデータ化の要望はないのか？	今のところデータ化の要望はありません。紙ならではの、紙でしか味わえない、何ともいえない趣があると思って印刷しております。
他市町村・新採用の方とすでに進めている方との、理解度の時差のようなものがあると思うが、どのようなサポートをされましたか？	すでに進めている会員も、新採用者も、同じ理解度でないのは当たり前なので、総合プランを活用・推進していく中で、お互いに学びあい、サポートしあっています。
新採用者に対する研修はどこに位置づけてどのようにしていくのか教えてください。	昨年度、数年ぶりにフレッシュな新採用者がいましたが、主に共同連携グループの活動に位置づけて行いました。共同連携の時間はもちろんですが、電話やMLによるフォローも行いました。
何度も何度も語られる言葉「夢」。会員の皆さんがそれを共有・共感してこそ素晴らしい実践につながっているのでしょうか。田村地区事務研が追い求める「学校事務の夢」とは何ですか？	子どもの豊かな学び・育ちを支援することが一番の目標であり大きな「夢」です。そのために解決・実現しなければならない課題があり、こうしたい、ああしたいと柔軟に思い描く目標も「夢」と考えています。それを実現していくことが「かたちに」です。それぞれのたくさんの夢を小さくても少しずつでもかたちにしていくことで、やがて大きな夢の実現につながるはずと考え取り組んでいます。夢は描かなければかたちにはなりませんから。